

Keyword: 安楽死、ポジティブ、ネガティブ、自殺、生きるための安楽死

1. 研究の背景

本研究の動機は、中学生の頃に国語の授業で学んだ「高瀬舟」という小説を授業で勉強したことを思い出したことにある。なぜ安楽死は認められないのか不思議に思うとともに、高校生はどのような意見を持つ人が多いのか知りたいと考えた。また、私が特に知りたいと思うことは、植物状態になってまで本人は生き続けたいか、家族も生きていて欲しいかという点である。

2. 先行研究の検討

安楽死というのは、死にたいと思う人だけが選ぶものではなく、「生きたい、生きたい、けれど、このようにしては生きていけないという人がギリギリまで生きるために選ぶもの」(シャボットあかね『生きるための安楽死—オランダ・「よき死」の現在』(日本評論社))であることが大前提である。安楽死が認められることにより、自分自身で決めた期限まで自分らしく精一杯生きることができると思う。これはまさに生きるために選ぶ安楽死だと言える。

3. 独自研究

私たちは世間の人々の安楽死についての認識を知るために、奈良県立国際高等学校第3学年の生徒77人を対象にアンケート調査を行った。「安楽死を知っていますか？」という質問に対しては、「はい」が96.1%、「いいえ」が3.9%と大半の人が知っていた。「自分が一生治らない病気で苦しんだり、植物状態になった場合、安楽死を選びますか？」という質問では、「はい」が62.3%、「分からない」が32.5%、「いいえ」が5.2%だった。「はい」でも「いいえ」でも、臓器提供についての意見があった。

4. 結論と今後の課題

私たちは安楽死をネガティブなイメージではなく、「安楽死という方法があることで、もう少し頑張ってみよう」と考えられるというポジティブなイメージでとらえてもらうことを目的に活動してきた。奈良県立国際高校第3学年の生徒を対象にとったアンケートの結果として、「本人の意思を尊重したい」という意見が多く、ネガティブなイメージを持っていた人は少なかった。しかし、ポジティブなイメージを持っている人はほとんどいなかった。この活動を通し、安楽死に向き合い自分の考えを深めたり、アンケート調査で自分たちにはなかった意見を知り取り入れることで、視野が広がったと考える。

参考文献

特定非営利活動法人 国際ビフレンターズ大阪自殺防止センター『知っていますか？自殺・自死防止と支援一問一答』解放出版社、2014

西尾実ほか編『岩波国語辞典第八版』(岩波書店)、2019

シャボットあかね『生きるための安楽死—オランダ・「よき死」の現在』日本評論社、2021

松田純『安楽死・尊厳死の現在 最終段階の医療と自己決定』中央公論社、2019